

アートフォースジャパン(5072)

案件管理システムの導入、業務効率化により利益率が改善。好調な戸建て住宅需要を背景に受注拡大が期待。

TOKYO PRO Market | エンジニアリングサービス | 業績フォロー

BLOOMBERG 5072:JP | REUTERS 5072.T

- 2021/12通期は、売上高が前期比3.7%増、営業利益が同6.3倍、経常利益が同70倍、当期利益が同25倍。戸建て住宅需要が好調に推移。
- ITツールの活用による案件の採算性改善、販管費削減に注力。粗利益率が前期比1.1ポイント上昇、売上高販管費率が同0.9ポイント減。
- 主要顧客であるパワービルダーが積極的に在庫の積み増しに動く中、引き続き同社の地盤改良事業における受注拡大が期待される。

What is the news?

2/15発表の2021/12通期は、売上高が前期比3.7%増の44.36億円、営業利益が同6.3倍の1.13億円、経常利益が同70倍の1.10億円、当期利益が同25倍の59百万円。同社が属する戸建て住宅建設業界においては、コロナ禍によるテレワークの普及、各種住宅取得支援策、低水準で推移する住宅ローン金利等を背景に住宅着工件数が好調に推移した。また、同社は案件データを可視化するシステムの導入による採算性の向上や、販管費の削減に注力。粗利益率が前期比1.1ポイント上昇の19.4%、売上高販管費率が同0.9ポイント減の16.9%と利益面が改善した。

セグメント別業績は以下の通り。①地盤改良事業は、売上高が前期比5.5%増の34.66億円、セグメント利益が同24.4%増の2.63億円。受注工事件数、単価、工事原価の最適化による収益向上に努めたほか、営業・施工人員の増強と営業エリア拡大に注力したことが増収増益に寄与。②建築事業は、売上高が同1.6%増の7.19億円、セグメント利益が前期の▲983万円から6,687万円へ黒字転換。特に住宅建築・営繕工事において、9月以降、前年を上回る受注を獲得。③その他事業は、売上高が同16.0%減の2.55億円、セグメント利益が前期の1,785万円から▲813万円へ赤字転落。クレーン工事受注が堅調だった一方、建設資材レンタル及びリースの受注件数、貸出期間の減少、新規貸出資材の稼働率の低下が響いた。

How do we view this?

2022/12通期の会社計画は、売上高が前期比5.2%増の46.65億円、営業利益が同48.4%増の1.68億円、経常利益が同38.8%増の1.53億円、当期利益が同67.7%増の1.00億円。資材の高騰や人手不足等が懸念されるものの、既存顧客の取引拡大と、営業エリア拡大による新規顧客の獲得に注力することで収益の拡大を見込む。

国土交通省が発表した2022年2月の建築着工統計調査によると、新設住宅着工戸数は前年同月比6.3%増の6.4万戸となり、中でも戸建て分譲住宅が10.7%増と10か月連続で増加した。マンション価格の高騰などを背景に、低価格の分譲戸建ての需要が高まっており、販売を手がけるパワービルダー主要各社は2021年12月末時点で在庫を積み増している。リモートワークの定着等により戸建て需要が堅調に推移する中、引き続き同社の主要事業である地盤改良事業の受注拡大が期待されよう。

業績推移

事業年度	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12F
売上高(百万円)	4,653	4,515	4,279	4,436	4,665
経常利益(百万円)	201	104	1	110	153
当期利益(百万円)	137	68	2	59	100
EPS(円)	546.55	274.61	9.34	238.42	399.79
PER(倍)	6.40	12.75	374.73	14.68	8.75
BPS(円)	2,618.64	2,916.18	2,881.60	3,183.62	-
PBR(倍)	1.34	1.20	1.21	1.10	-
配当(円)	-	-	-	-	-
配当利回り(%)	-	-	-	-	-

(※)2020/7/31付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を実施したが、2018/12期の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPS、BPSを算定している。(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=会社予想)



フィリップ証券

A Member of PhillipCapital

フィリップ証券株式会社

配当予想(円) - (会社予想)

株価(円) 3,500 2022/4/6(基準値)

会社概要

1990年に代表取締役社長の山口喜廣氏が静岡県伊東市で、移動式クレーンのリース業を目的とする会社として前身の有限会社アートクレーンカンパニーを設立。1996年に現在の主たる事業となる地盤改良工事業に進出後、2010年に建設業許可を取得。2018年に株式会社アートフォースジャパンへ商号を変更した。2020/10/21にTOKYO PRO Marketに上場した。

同社は連結子会社として、セキスイハイム東海の本体工事店である株式会社アクシス、土留めパネルリースを手掛けるクラウン工業株式会社、および建設・土木工事を営む株式会社塚本工務店の3社を擁し、地盤改良事業、建築事業、その他事業の3事業セグメントを展開する。

①主力の地盤改良事業は、「地盤調査」、「地盤改良工事」、および「地盤品質保証」の各業務をワンストップで提供することにより、調査後の施行内容や顧客ニーズについて調整および情報提供ができ、業務間での相乗効果を発揮できることを強みとしている。

②建築事業は、「住宅建築」と「営繕工事および公共工事」から構成される。住宅建築は子会社のアクシスがセキスイハイム本体工事店を運営。営繕工事および公共工事は、子会社の塚本工務店が工場および研究施設等の営繕工事、ならびに小田原市および神奈川県で土木の公共工事を行っている。

③その他事業は、「建材レンタル・リース」と「クレーン」から構成される。建材レンタル・リースは子会社のクラウン工業が茨城県を中心に土留めパネル等建設用仮設資材を主にレンタル・リースしている。クレーンはアートフォースジャパンが静岡県東部や神奈川県西部を主としたエリアとして移動式クレーンとオペレーターで現場へ赴き、建築工事や土木工事での荷物の吊り上げ作業を行っている。

企業データ



(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

主要株主(2022/3/31) (%)

- 山口 喜廣 57.37
- 株式会社YY 30.27
- 山口 寧子 7.96

(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

山口 亮太

ryota.yamaguchi@phillip.co.jp
+81 3 3666 0707

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980



【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
日本証券アナリスト協会検定会員 山口亮太

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。